アクティブ・ラーニングスペースの提供にかかる活動

はじめに

杉田茂樹
学術コンテンツ課

本館

本館

亥鼻分館

- グループ閲覧室
  - 大2室（15名）、小2室（10名）
  - 予約制
  - 学生のみで
    利用可

松戸分館

- “アクティブ・ラーニングスペース”
  - 1室（20名）
  - 予約制
  - 教員の引率

空間のポテンシャルを十全に

- 附属図書館／アカデミック・リンク・センターが仕掛けるアクティビティ
  - ブックツリーの利用とプレゼンテーションスペース／綾田陽子（利用支援企画課）
  - 1210あかりんアワー：2012年度から現在までとこれからについて／谷奈穂（学術コンテンツ課）
- アクティブ・ラーニングスペースを利用者はどのように受容しているのか
  - 情報利用行動定点観測プロジェクトで実施した5つの調査／庄司三千子（学術コンテンツ課）

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

ブックツリーの展示利用
と
プレゼンテーションスペース

利用支援企画課　綾田陽子

ブックツリー

・見せる書架

・N棟を支える2本の構造体

・周囲に書架を巡らせている

・展示スペース（東側1F・3F）

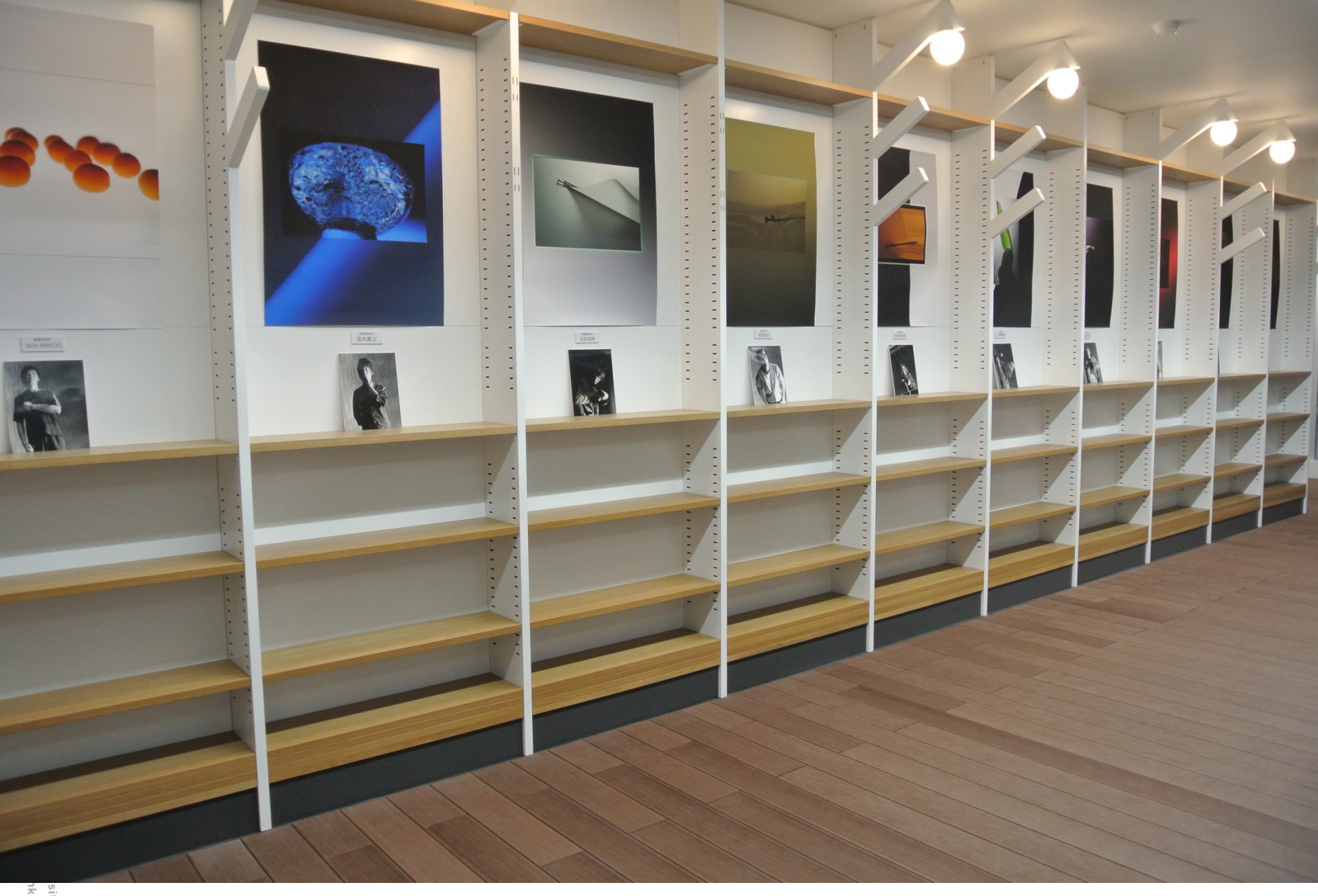
ブックツリーとプレゼンスペース

見せる書架　ブックツリー

ブックツリー１Ｆ

・図書館の外からよく見える。

・図書の展示はできない。



写真部による展示（BT1F)

写真部　展示　けやき通りから

建築模型卒業展示(BT1F)

建築模型卒業展示　けやき通りから

ブックツリー3F

・ゲートの中

・図書を用いた展示が可能

※西向きの1面は「1210あかりんアワー」の展示に使用

図書を使った展示（BT3F)

プレゼンテーションスペースとは

・N棟1F

・授業、セミナー、各種イベント等

・研究成果を発表する場

プレゼンテーションスペース

プレゼンスペースの利用例

- 授業での利用
  (ゲストスピーカー、授業の宣伝)
- プレゼンテーションの場としての利用
- 千葉大学の各部局が開催するイベント
- 附属図書館による利用
(ガイダンス、見学対応、「1210あかりんアワー」等)

組み合わせた利用例

・ブックツリーと図書館内展示ケースで写真展示、関連するテーマで「1210あかりんアワー」

・ブックツリーでポスターセッション、プレゼンテーションスペースで講評を行う。

・3階ブックツリーで本の展示(メイン)。1階ブックツリーを広報スペースとして使う。プレゼンテーションスペースでトークイベントを2回開催。

教員による写真展(BT1F)

展示をつくるB(BT3F)

展示をつくるB(BT1F)

展示をつくる　トークイベント
（プレゼンテーションスペース）

利用手続き等

- 利用申込
- Googleカレンダーで管理
- 利用当日
- 学生とのやりとりは教員にもcc:

今後の課題

- 千葉大学の活動を発信する場
- 使える場所であることを見せる
- 常設コンテンツの準備
- カウンターとの連携

1210あかりんアワー
2012年度から現在までと
これからについて

千葉大学附属図書館
学術コンテンツ課　谷　奈穂

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

1210あかりんアワー

- 2012年4月スタート
- 学生向けショートセミナー
- 授業期間中の火・金、昼休みの12:10-12:40
- プレゼンテーション・スペース
- 事前申し込み不要、出入り自由

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

プレゼンテーションスペース

目的

①学生と教職員の距離を縮める

②学びの視野を広げる

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

実施企画

- 火曜日
  - 教員が研究の楽しさを語る
- 金曜日
  - 働くオトナが学生に薦める1冊の本
  - ALSAカフェ
  - 外国に暮らす
  - 千葉大人の意外な一面を発見する，職員課企画，学生版ブックトーク，弦楽四重奏…

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

月別カレンダーと各回ポスターで広報

Academic Link

Chiba University Academic Link Center

お申し込みは不要です。学外・学内問わずどなたでもご自由にご参加ください。

1210 あかりんアワー

@附属図書館 N 棟 1 階
プレゼンテーションスペース
12:10-12:40

6 月スケジュール

6/4(火)	教員が研究の楽しさを語る 第 38 回 岩間厚志先生(医学研究院) 「iPS 細胞ができて明らかになった生命の神秘」
6/7(金)	ボランティア活動支援センター企画
6/11(火)	教員が研究の楽しさを語る 第 39 回 宮内崇裕先生(理学研究科) 「憂慮される原発敷地周辺の活断層と海岸部を襲う直下型大地震」
6/14(金)	ALSA カフェ 第 6 回(仮)
6/18(火)	教員が研究の楽しさを語る 第 40 回 鈴木宏子先生(教育学部)「古今和歌集の想像力」
6/21(金)	外国に暮らす 第 3 回 「アメリカ NJ 州での留学生活」 小室信喜先生(融合科学研究科)
6/25(火)	教員が研究の楽しさを語る 第 41 回 西川恵子先生(融合科学研究科)
6/28(金)	ブックトーク 第 9 回 荒井陽一さん(施設環境部設備環境課) 伊原一成さん(亥鼻地区事務部薬学部) 小倉吉輝さん(財務部契約課)

※お申し込みは不要です。どなたでもご自由にご参加ください※

1210あかりんアワー 6/11
附属図書館N棟1階
プレゼンテーションスペース(火)
12:10-12:40

先生が研究について、ちょっと本気で語ります。授業とは一味違う30分間。

教員が研究の楽しさを語る

第39回

宮内崇裕先生
(理学研究科
専門分野:
変動地形学)

テーマ:

憂慮される原発敷地
周辺の活断層と海岸部
を襲う直下型大地震

実施状況（2012年4月～2013年5月現在）

開催81回

登壇114名

- 教員55名
- 職員40名
- 役員8名
- 学生10名
- OG　1名

参加2,147名

- 27名／1回平均
- 80名（最大）

※参加者数は概算

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

教員が研究の楽しさを語る

教員が研究の楽しさを語る

Academic Link
Chiba University | Academic Link Center

1210あかりんアワー　教員が研究の楽しさを語る
第12回（7/10）　高垣美智子先生推薦　ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

Book1

手賀沼発　農業で沼の水を浄化する

著者：高垣美智子・丸尾達　出版社：千葉日報社

コメント：平成12年まで17年の長期に渡って連続水質汚濁日本一という不名誉な記録を持っていた手賀沼の水質を野菜の栽培により浄化しようとした 千葉大学の取り組みについて多面的に書いたものです。

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

働くオトナが学生に薦める1冊の本

附属図書館
ワンダフル・ライフ
バージェス頁岩と
生物進化の物語
（S.J.グールド）

学術国際部
オトナ語の謎。
（糸井重里）

企画総務部
オトことば
（乙武 洋匡）

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

ALSAカフェ

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

外国に暮らす

目的は達成できているか？

①学生と教職員の距離を縮める

→幅広い学部・部局、年代の教職員が登壇

②学びの視野を広げる

→専攻分野に限らない学問を見る

→様々な経験や価値観に触れる

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

さらなる成果

- 千葉大学の「ショウケース」
- 学生や職員のプレゼンテーションの機会
- 図書館のコンテンツやサービスの紹介
  （ブックツリー、ガイダンス）
- 新しいスペースの活用
  （プレゼンテーションスペース）

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

今後の展開

- 学生へのアピール
- 継続的な実施
- 学生（ALSA-GS）による企画

Academic Link
Chiba University
Academic Link Center

情報利用行動定点観測プロジェクトで実施した５つの調査

学術コンテンツ課　庄司三千子

学習空間・情報利用行動の調査

A）学習・情報利用行動はどう変化したか？

① 千葉大学学習状況・情報利用環境調査

② FGIによる学習・情報利用行動実態調査

B）新図書館・学習空間をどう利用しているか？

③ 防犯カメラ画像によるALS定点観測調査

④ フォト・ボイスによるALS利用状況調査

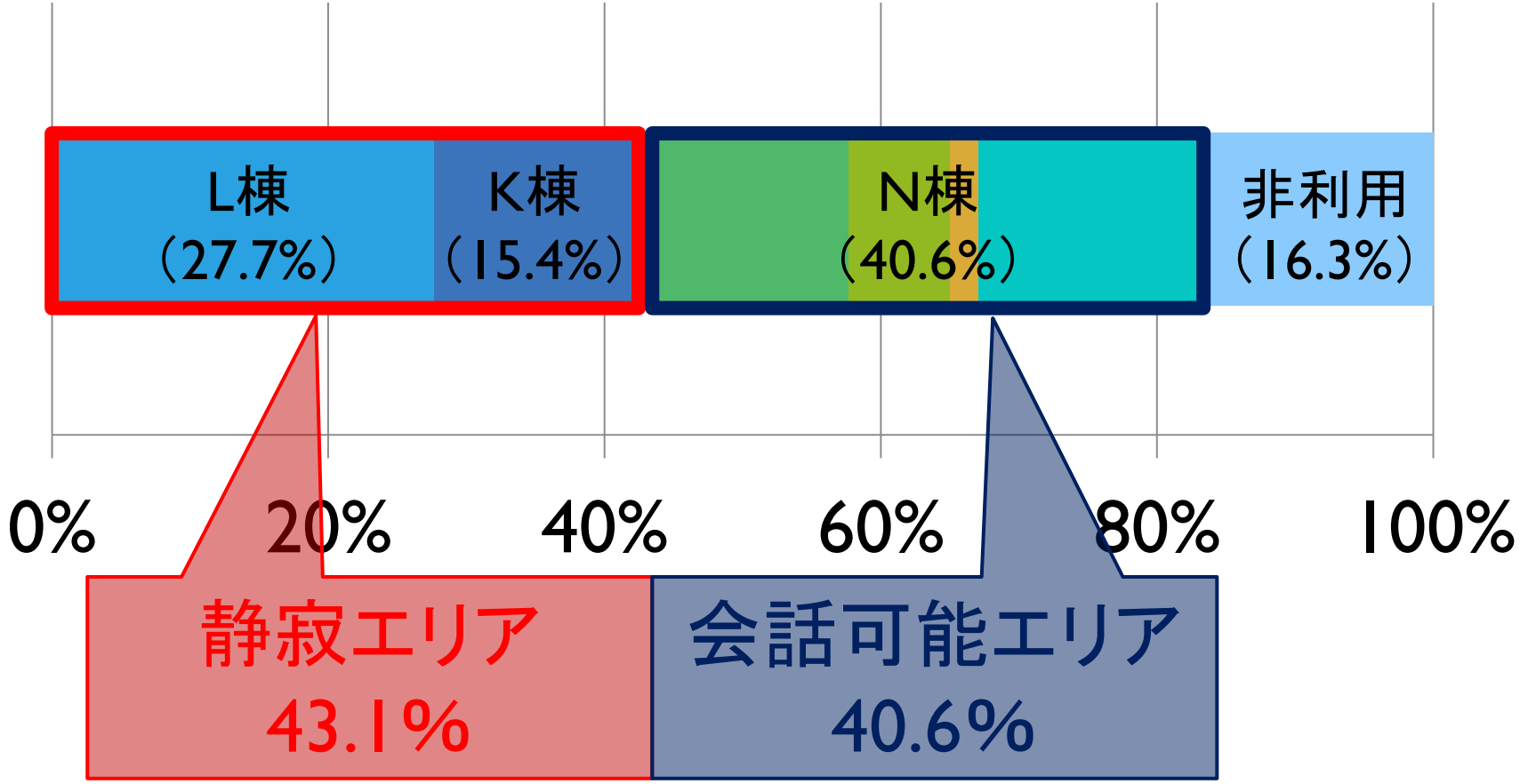
⑤ N棟における図書利用状況調査

千葉大学学習状況・情報利用環境調査2012

- 実施: 2013年1月～3月
- 目的: 学習や情報利用の状況を毎年調査
- 対象: 全学の学部学生10,796 名
- 方法: ウェブ質問紙
- 項目: 授業、勉強場所、電子機器、
  調べもの（利用情報源と問題点）、
  生活時間、附属図書館の利用頻度・
  時間帯・サービス認知など（38問）
- 結果: 集計・分析中（回答総数: 1,038 ）

学習場所についての質問

Q：図書館での学習に最も好ましい場所は？



（N=100,9／択一）

フォーカス・グループ・インタビューによる学習・情報利用行動実態調査

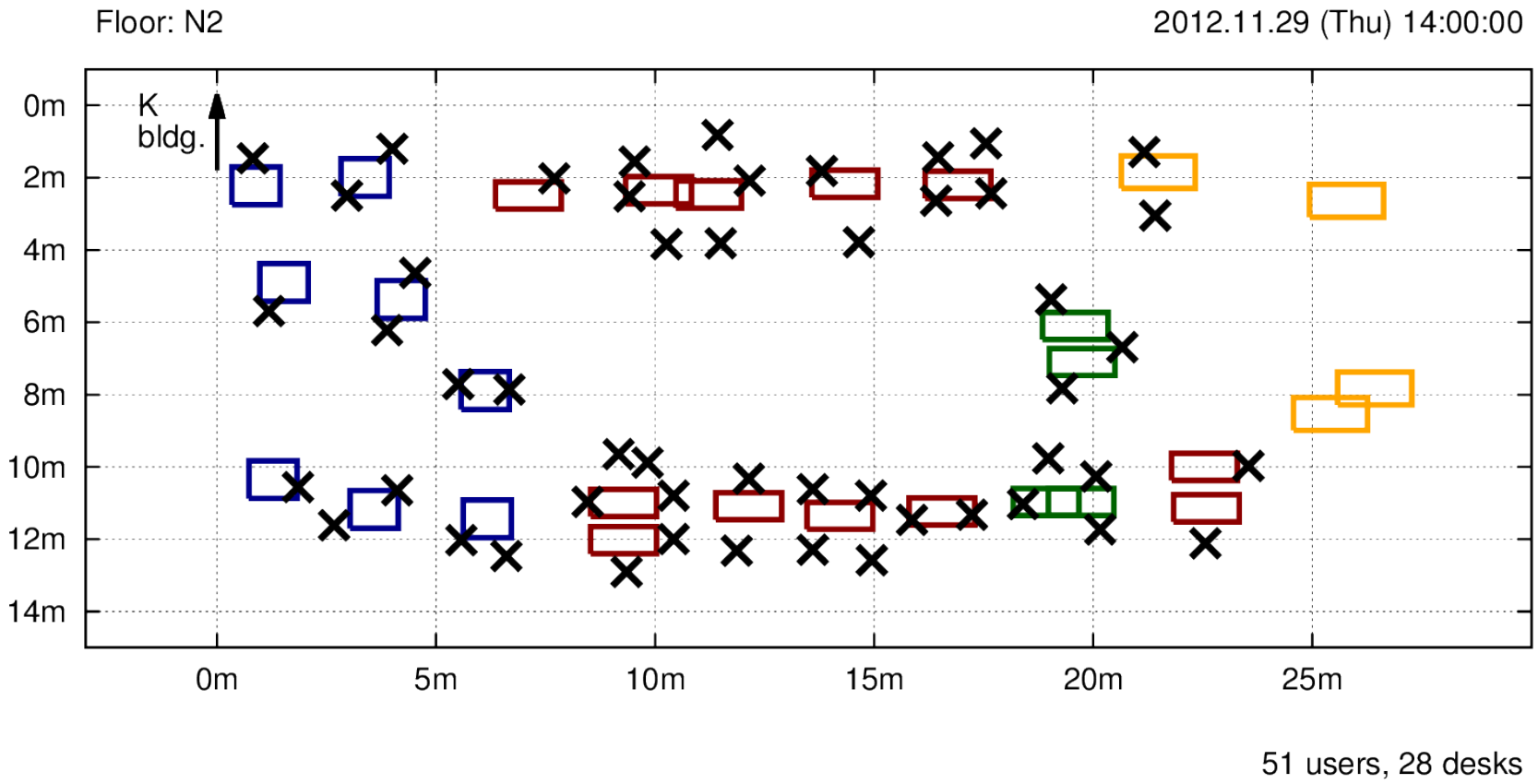
- 実施：　2013年2月
- 目的：　図書館改築前後で学生の学習や情報利用行動がどう変化したかを探る
- 対象：　本館利用者（学部2年以上＋院生）
- 方法：　フォーカス・グループ・インタビュー（5グループ、1.5～2時間）
- 項目：　1）図書館の利用、2）学習行動
- 結果：「大学教育学会」にて一部報告（6月）

→内容は後述

防犯カメラ画像による
アクティブ・ラーニング・スペース定点観測調査

- 実施: 2012年11月～2013年2月
  （授業期間・試験前・試験期間の6週間）
- 目的: N棟2・3階＋4階学習室の利用状況を探る
- 対象: 本館への来館者
- 方法: カメラの静止画像より以下の項目を測定
- 項目: 1）年月日時
  2）机と椅子の数・配置
  3）利用者の位置・人数
- 結果: 推移を30分おきにプロットし占有率等分析

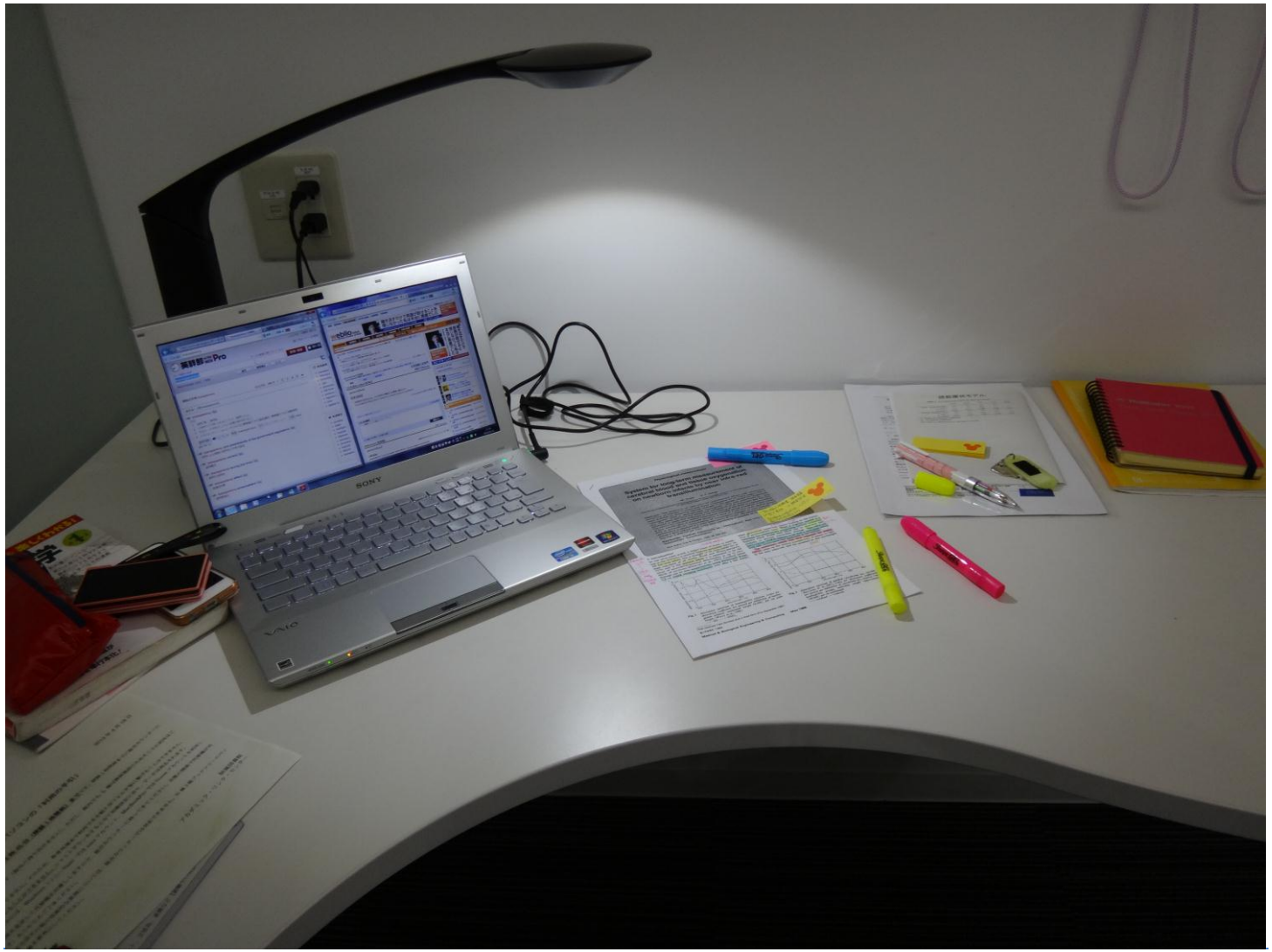
プロットの例


Floor: N2
2012.11.29 (Thu) 14:00:00
K
bldg.
0m
2m
4m
6m
8m
10m
12m
14m
0m
5m
10m
15m
20m
25m
51 users, 28 desks

フォトボイス（学生撮影写真）による アクティブ・ラーニング・スペース利用状況調査

- 実施: 2013年2月（撮影）、4月～5月（インタビュー）
- 目的: 館内の利用実態を探る
- 対象: 学部生・院生、計5名
- 方法: 1）学生にデジカメ1台＋地図を貸与（数週間）
  - A群：入館後30分ごとに「今やっている事」を撮影
  - B群：学習場所が変わる都度、指示項目を撮影
    （仲間・空間・机上の様子）
  - 2）撮影者と写真・地図を見つつ個人インタビュー
    - どこでどんな資料・機器を使い
      どのような学習を、なぜしたのか？
- 結果： 分析中

学生撮影写真



N棟における図書利用状況調査

- 実施：2013年1月～2月
- 目的：N棟におけるコンテンツの利用状況
  （内容・移動先）を探る
- 対象：来館者全員
- 方法：1) 返却用ブックトラックを
  N棟2階に2台、3階に1台設置
  2) 1日3回回収・データ収集
- 項目：1)日時、2)書誌事項、3)請求記号、3)配架先
- 結果：　分析中

ブックトラックでの返本状況

フォーカスグループインタビュー
（結果の一部）

新しい学習空間でみられた行動

A 個人での学習・活動（対話なし）

- 本を読む（紙・電子書籍）
- 本を借りる
- 調べる
- 執筆する（レポート・論文）
- ペン習字の練習
- テープ起こし
- インターネット
- 手帳に書込み
- 寝る・ぼんやり・勉強（詳細不明）

B グループでの学習・活動（対話）

- 授業課題(グループワーク)
- 解答を見せ･教えあう
- 本を読みあう(読書会)
- プレゼンの練習･講評
- 将来について話す
- コンペティション(建築)
- ブレスト
- インタビュー
- サークル企画
- 数式を書く
- グラフ作図

C 個人学習 ⇔ グループ学習

- １人で勉強　⇔　みんなに質問
  - ある程度の基盤までは、１人で勉強しているが、分からない箇所が出てきたら友達に相談する
- ２→３→４人…（増加）　⇒　みんなで勉強
  - 最初は少人数で勉強していたが、徐々に人が増えていき、みんなでわあわあ勉強している

学習行動・活動を誘発した要因

①空間（本棚）設計

本を読む（興味関心の拡大）

- “N棟って本棚にぎっしり入ってるっていう感じじゃなくて、並べてある感じじゃないですか（中略）なので目にとまった本を取って、ちょっと見たり（できる）”【Ha：工】

①空間設計(個人・グループ学習席)

１人で勉強　⇔　みんなに質問

- “（１人で勉強したい学生は）
  窓際で勉強して、分からない事とか、
  質問とかあったら、うちらがいる
  大テーブルの所まで来て、話して、
  また分かったら個人のところ（学習席）に
  戻っていく”【Ts：教】

②可動型の机・椅子

個人学習⇔グループ学習

- “最初は2人とかで勉強してても、だんだん集まって（中略）最終的に10人とか15人とか集まって（くる）そういうとき、やっぱり机、動かしてつけれるじゃないですか。だから、それはすごい動かせてよかったなって”【Ts：教】

③可動式ホワイトボード

思考の共有・議論活性・集中力向上

- 思考の共有

“とても便利で、そこに（分からないところを）書き出して（量子化学の）ここが分かんないんだけどみたいな”【Sai：工学】

“会議内容を書きとめながらみんなで話し合えるんですごい重宝”【Mit：工学】

- 議論の活性化

“（それまでは）紙をのぞき込んでやる、みたいな感じだった（中略）。ボードが入ったことで視点が高くなったんで、みんな活発に議論してる”【Sa：工学】

- 集中力の向上

“（ボードがないと）気が散るじゃないですか。（周りは）何やってるんだろうって思うのが（中略）「団体別の空間」ができて話し合いに集中できる”【Yo：教育】

④人・サービス（学習相談）

- レファレンス・デスク　＆　院生による学習相談

「気軽さ」を評価

- 特に…
  - 相談者が院生（先輩）である
  - 開放空間にある
- “僕のバイト先の先輩がやっててね、
  結構おもしろいですね（相談時間が）終わる
  間際に行ってちょっと話を聞いて”【Ab：工】
- “（友達が）話してたんで、
  俺もそこにまじって話して”【Sai：工】

環境整備によって起きた
学生の認識の変化

①オープン環境⇒来館・学習機会の増加

- “今まで図書館で見かけなかった
  友達を見かける”【Tak:教】
- “(プレゼンスペースで)設計の何か講評会
  みたいなのをやった のがいい思い出
  (中略)いろんな学年がやってたんで、
  見たり発表したり”【Sa:工】
- “できる(ことの)幅がふえた(中略)この1時間
  だけ空いてるからじゃあ行こうかなと(中略)
  気軽に行ける”【Yo:工】

②「見える」環境⇒学習意欲の増加

- “（ホワイトボードに）数式とか書いてると、ああ、あの子たち頑張ってるなやんなきゃ、みたいな気持ち（中略）すごいみんな頑張ってるなと思って見てて楽しい（中略）千葉大ってこんなに「勉強したい」っていう学生がいっぱいいたんだって” 【Ue：看護】

③相互作用的な環境 ⇒ 教えあう

- “分かったつもりでいたことを、人に聞かれると、ああ、実はわかってなかった（中略）説明できないと思うこともあるので。その至らなさを知るという意味でも結構大事”【An：看】
- “（物理学の）概念を理解するために、
数式であったりとか、自分の言葉で（中略）
アウトプットなりインプットなりすることで理解しようと思ってる（中略）やっぱり
人に喋るっていうのは大事”【Od：理】

学習空間・情報利用行動の調査

A）学習・情報利用行動はどう変化したか？

① 千葉大学学習状況・情報利用環境調査

② FGIによる学習・情報利用行動実態調査

B）新図書館・学習空間をどう利用しているか？

③ 防犯カメラ画像によるALS定点観測調査

④ フォト・ボイスによるALS利用状況調査

⑤ N棟における図書利用状況調査

ご清聴ありがとうございました

http://alc.chiba-u.jp/